

～安藤 隆男先生 講演録より 抜粋～

(平成27年度 成果報告会)

外部人材の活用は大事なのですが、活用の前提はあって、やはり、『魂を売ってはいかん！』教育の独自性とか、やはり独自の教育の機能を果たしていく専門家として我々はいるので、これだけは絶対何としても譲ってはいけない。

大事なのは、教員は授業において孤独です、誰も助けてくれない、一人で子どもと向き合う場面だと思っています。やはりその専門性においては、個人に帰属するものである。絶対に誰も助けてくれない。TTの場面でもそうである。役割はあるだろうけれど、きっちり主体的に実施する。

もう一つは、組織次元とか、集団次元で実現しなければならない専門性というものがあるのです。一人では絶対に解消できない課題が教育課題として増えてきています。そういった場合は、チームを組んでアプローチする、チームとしての学校とかチーム力と言われるようなものです。

授業でいうと、学ぶ主体の子どもと、教える主体の教師と、あとは、教材、あと装置ですね。指導形態どうするかとか、TTなんかもそうですが、これも方略をもたないと、ただみんなでやっているだけで終わってしまって、非常にあいまいな授業になってしまう。どのような装置を仕組んでいくかということ、今後明確にしていく段階であると思っています。

今、特別支援学校は、特別支援学級、通級の対象者が急激に増える中で、その割合が相対的に小さくはなっていますが、特別支援学校が動力となり、特別支援教育全体をきちんと回していくことで特別支援教育を充実し、インクルーシブ教育システムを進めていく、そういうモデルが、今、日本のモデルではないかと思っています。

